

平成 21 年 11 月 16 日

各 位

会 社 名 インスパイア株式会社
 代表者氏名 代表取締役社長 駒澤 孝次
 (コード番号：2724 大証ヘラクレスG)
 問 合 せ 先 経営企画室 室長 本多 隆
 電 話 番 号 03-5418-4811

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は平成 21 年 11 月 16 日開催の取締役会において、最近の業績動向を踏まえて、平成 21 年 5 月 15 日に公表いたしました平成 22 年 3 月期の第 2 四半期累計期間（平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日）及び通期（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）の業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 22 年 3 月期 第 2 四半期累計期間 個別業績予想数値の修正

(平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

(個別)	売上高	営業利益	経常利益	四半期 純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	469	△152	△152	△152	△2,517 87
今回発表予想(B)	377	△190	△190	△194	△2,588 96
増減額(B-A)	△92	△38	△38	△42	—
増減率(%)	△19.6%	—	—	—	—
(参考)前期同期実績	776	△164	△196	△1,005	△21,916 83

2. 平成 22 年 3 月期通期 個別業績予想数値の修正

(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

(個別)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,032	△247	△247	△247	△4,086 76
今回発表予想(B)	773	△298	△298	△305	△3,225 20
増減額(B-A)	△259	△51	△51	△58	—
増減率(%)	△25.1%	—	—	—	—
(参考)前期同期実績	1,503	△423	△497	△1,518	△73,395 46

3. 修正の理由

(1) 第2四半期累計期間の業績予想

大手企業や官公庁のみならず、堅調であった中堅企業のセキュリティ商品の購買意欲についても抑制傾向が一段と強まっており、同時に販売競争はますます激化してきているため、売上・利益ともに当初予想を大きく下回る結果となりました。また、新規事業については、第2四半期累計期間においては事業立ち上げ及び当社売上計上に向けた準備作業を行っている期間であるため、売上・利益に対する貢献は大きくありませんでした。

経費関連につきましては、経営基盤の安定と新規ビジネス立ち上げに向けた増資等の資金調達に起因する株式関連費用や、会計監査人の異動等に伴う支払い手数料、新規事業の立ち上げに係る業務委託料等が大きく増加いたしました。また、全社コストのスリム化を図り効率的な経営体質への改善に努めた結果、販売費及び一般管理費は若干の減少となりました。

なお、過年度において貸倒引当金繰入処理を行ってございました当社取引先に対する貸付金の一部について、当社会計監査人の指導のもと、法定繰入率の見直し等の再検討を行った結果、当期第2四半期会計期間において貸倒引当金戻入額として12,812千円を特別利益として計上しております。

(2) 通期の業績予想

通期におきましても、依然として市況の回復には時間を要するものと考えられており、企業の購買意欲は引き続き抑制傾向であると想定されることから、当社セキュリティ商品を含む設備投資等について、年度末需要も当社計画値に比べ期待は出来ない状況にあり、引き続き苦戦が予想されております。また、新規事業についても、通期においては一定の売上・利益の貢献はなされとの予想を立てておりますが、事業立ち上げ及び当社売上計上準備の進捗が当初想定よりも遅れていることもあり、引き続き売上・利益に対する貢献は大きくないものと予想されます。

経費関連につきましては、引き続き全社コストのスリム化を図り、販売費及び一般管理費における経費削減等による利益体質への転換と効率的な経営体質への改善に努める所存であります。

しかしながら、上記施策によっても全体的な売上・利益の落ち込みをカバーするには至らないと想定しており、通期につきましても業績予想の修正を実施いたしました。

【注記事項】

上記の業績予想は、当社が現時点で合理的と判断した一定の前提に基づき算定しておりますが、実際の業績は予想と異なることがあります。

以 上